

## Çalışma Takvimi

Dersin Kodu ve Adı: JPN426 Klasik Japon Edebiyatı II

Hafta: 10

Haftalar	Haftalık Konu Başlıkları
10.Hafta	Haiki II: MATSUO Basho ve <i>oku.no.hosomiçi</i>

松尾芭蕉 奥の細道

序文

月日は百代(はくだい)の過客(くわかく)にして行きかふ年もまた旅人なり。舟の上に生涯を浮かべ、馬の口をとらへて老いを迎ふる者は日々旅にして旅をすみかとする。古人も多く旅に死せるあり。予もいづれの年よりか、片雲の風に誘はれて、漂泊の思ひやまず、海浜にさすらへ、去年(こぞ)の秋、江上(かうしやう)の破屋(はおく)にくもの巢を払ひて、やや年も暮れ、春立てる霞(かすみ)の空に白河の関越えんと、そぞろ神の物につきて心を狂はせ、道祖神の招きにあひて取るもの手につかず、ももひきの破れをつづり、笠の緒(を)をつけ替へて、三里に灸(きう)すうるより、松島の月まづ心にかかりて、住める方(かた)は人に譲り、杉風(さんふう)が別墅(べつしよ)に移るに、

草の戸も 住み替わる代(よ)ぞ ひなの家

面(おもて)八句を柱に掛け置く。